

## ● デートDVについて

### ◆デートDVとは

DV（ドメスティック・バイオレンス）とは夫婦など親密な関係にある者の間で起こる暴力のことですが、暴力的な関係は決して結婚しているカップルにだけ起こる問題ではありません。配偶者関係にないカップルの間に起こる暴力を「デートDV」といいます。デートDVの多くは若年の人たちの交際中に起こり、被害者も思春期・青年期の若者が多くなっています。デートDVは、若い男女が性関係を結ぶなど親密な関係になったとき、支配と暴力が顕在化したり、ひどくなったりするのが特徴です。

### ◆デートDVの内容

デートDVの暴力の内容は、配偶者間のDVと共通していますが、若者たちのデートDVでは、携帯電話や携帯メールによる「行動を逐一報告させられる」「メールをすぐに返さないと怒られる」「メールアドレスから異性の名前を消すように言われる」などの束縛や干渉が見られます。また、交際する＝性行為をすと思い込んでいる人が多く、交際中の相手から性行為を強要されることもデートDVになります。

### ◆デートDVの要因

#### ・その1 力による支配

私たちの社会の中には「力で人を支配していい」という間違った思い込みがあふれています。「人を支配する」ということは、実はその人をひとりの人として対等・平等に見ていない、尊重していないということです。デートDVも「力による支配」となり、それは人権侵害であり、犯罪となりうる行為です。

#### ・その2 ジェンダー・バイアス

ジェンダーとは「女らしさ」「男らしさ」といった社会的に作られた性別のことで、バイアスとは偏見のことです。私たちはその偏見を、テレビドラマやCM、雑誌、漫画、歌詞等でジェンダー・バイアスを見たり、聞いたり、感じたり、体験したりして気づかないうちにとっても影響を受けています。女性（男性）はこうあるべきというジェンダー・バイアスを当たり前だと思っている女の子と男の子が親密な関係になると、力を持つほうとそれに従うほうになってしまいがちです。ラブラブの関係がいつの間にか主従の関係になってしまい、デートDVが起こりやすくなります。

#### ・その3 暴力容認

暴力を甘く見ている私たちの意識にも問題があります。「暴力で問題を解決していい」と

いう間違っただメッセージが社会にはあふれています。多くの人が暴力はいけないことだと言いますが、相手が間違っているときや愛情があるなら、暴力を使っても仕方ないと容認しがちです。それは大きな間違いであり、暴力は問題解決の方法には決してなりません。

#### ◆デートDVが与える影響

デートDVの被害者は「他人との人間関係が持ちにくくなった」「男性が怖くなり、信じられなくなった」「夜眠れなくなった」「死にたい気持ちになった」などの症状が出ています。また、デートDVにより妊娠・出産にいたったカップルが婚姻関係になったからといって、その関係が改善されることは皆無に近く、デートDVは引き続き配偶者間のDVになるにすぎません。

デートDVは、人権問題や男女平等などにかかわる重大な社会的問題です。被害者の体と心をむしばみ、これから人生を切り開いていく入口にいる思春期・青年期にある若者の日常生活にも影響を及ぼしていきます。そして、将来のある若者の人生を本人の意に沿わない方向へと導いていってしまうのです。

#### ◆相談窓口

一人で抱え込まないで、まずは相談してください。

あなたはひとりぼっちではありません。

- ・ 田辺市男女共同参画センター「女性電話相談」午前9時～正午

0739-26-4919

- ・ 紀南DVセンター（DV被害者支援センター）24時間対応

0739-24-3322